

宇陀市
室生寺門前および室生口大野駅周辺地区
まちづくり基本構想

平成29年3月

1. 構想の目的等と位置付け-----	3
1-1. 構想策定の背景と目的-----	3
1-2. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の位置及び区域-----	4
1-3. 基本構想の位置付け-----	5
2. 対象地区の歴史-----	6
2-1. 対象地区の歴史-----	6
2-2. 室生口大野駅周辺地区まちづくりの経緯-----	7
3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題-----	8
3-1. 観光面からの課題-----	8
3-2. 交通面からの課題-----	11
3-3. 生活面からの課題-----	15
3-4. まちづくりの課題図-----	18
4. まちづくりのコンセプトと基本方針-----	20
4-1. コンセプト-----	20
4-2. まちづくりの方針-----	21
4-3. まちづくりの施策体系-----	22
4-4. まちづくり構想図-----	23

1. 構想の目的等と位置付け

1-1. 構想策定の背景と目的

○室生地域は、奈良県北東部の山間部に位置し、その歴史は古く、伊勢参りが盛んであった江戸時代には、地域を通る2本の伊勢街道（伊勢本街道、伊勢表街道）の宿場町として大いに賑わいを見せた。世界的に有名な室生寺をはじめ数多くの史跡、国宝・重文級の文化財などが存在しており、古くから信仰の聖地として多くの人々から親しまれてきた。

○地域の農林業では、茶、木材や米の生産及び乳牛・肥育牛・採卵鶏の飼育等が行われている。

○人口5,000人余りの小さな地域であるが、若年層を中心とした都市部への流出超過等が影響し、人口減少と高齢化が進んでいる。

○高齢化率は年々上昇傾向にあり、平成22年の37.3%に対して、平成27年には41.5%となっている。世帯数の減少は比較的緩やかであるが、核家族化、独居高齢者世帯の増加がみられる。

○本地域は面積の80%を山林が占める林業地帯であるが、経営規模が小さいことから、近年の木材価格の低迷や林業労働者の高齢化・後継者不足により堅調とはいえない経営となっている。

○今後は若年層の減少に対し、移住・定住の促進や雇用の場の確保、子育て支援をはじめとする少子化対策、高齢者の生きがいづくりなど、包括的な活性化に向けたまちづくりを進めていくことが望まれる。

○こうした状況を踏まえ、平成27年12月25日付けで締結した、奈良県と宇陀市とのまちづくりに関する包括協定書に基づき、「室生寺門前および室生口大野駅周辺地区」を対象として、地域の特性を活かしながら市全体の利便性を向上させ、地域の活性化につなげるための【まちづくり基本構想】を策定することを目的とする。

出典) 宇陀市過疎地域自立促進計画



五重塔(国宝)



金堂(国宝)

室生寺



室生寺門前



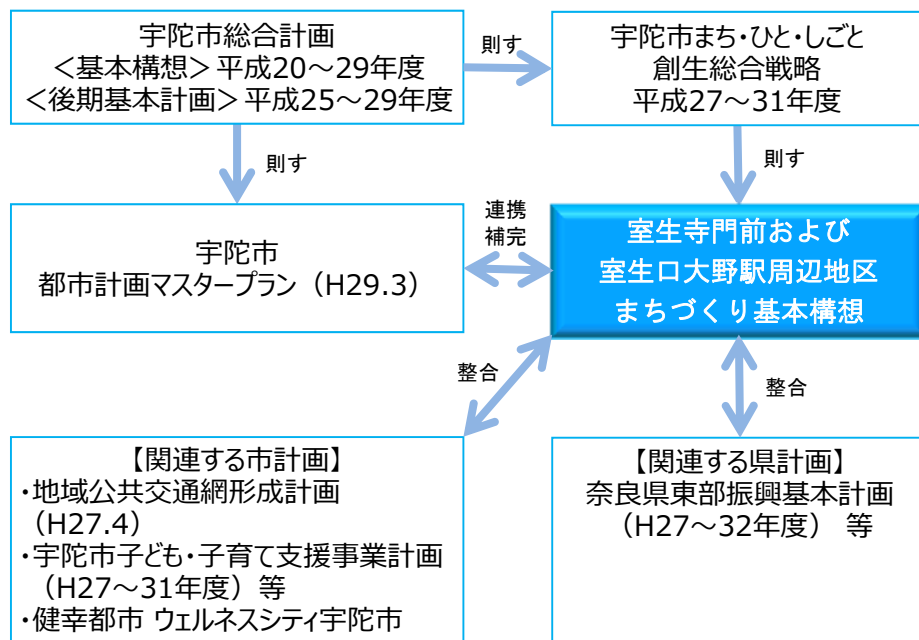
山の上のモニュメント
(山上公園)

1. 構想の目的等と位置付け

1-3. 基本構想の位置付け

- 本構想は、上位計画である「宇陀市総合計画・後期基本計画」や「宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえた基本構想であるとともに、策定中の「宇陀市都市計画マスタープラン」等と連携・補完するものである。（室生地域は都市計画区域外）
- また、「地域公共交通網形成計画」などの市計画、「奈良県東部振興基本計画」などの奈良県計画との整合を図るものである。

<基本構想の位置付け>



<上位関連計画を踏まえた地区の位置付け>

室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の役割	
【室生寺門前】 室生寺をはじめ、観光資源を多数有する観光拠点	【室生口大野駅周辺】 室生寺へのアクセス拠点及び地域の生活拠点

室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の位置付け	
【室生寺門前】 室生地区の観光拠点として、賑わい創出を図るエリア	【室生口大野駅周辺】 室生地区の玄関口として、来訪者の受入拠点及び地元住民の生活拠点としての機能整備を図るエリア

主な上位・関連計画	室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の位置付け
宇陀市総合計画	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な森林資源・観光資源を活かして、環境学習等を図り、また、農林業の活性化、自然派志向による定住促進、グリーンツーリズム（農山村での滞在型余暇活動）による交流促進を図るエリア
宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略	<ul style="list-style-type: none"> 室生寺の賑わいある門前町と室生山上公園の芸術を肌で感じられるまち 室生口大野駅周辺を、賑わいがあり、歩いて楽しく、住み続けられる、高齢者にも優しいまち
宇陀市都市計画マスタープラン (H29.3)	<ul style="list-style-type: none"> 室生寺や、大野寺、室生山上公園芸術の森等の豊富な観光資源を有効活用し、人を呼び込み、活力あるまち。 公有地を有効活用した高齢者に優しいまちであるとともに、本地域の玄関口である室生口大野駅前における公共サービスや観光案内等の拠点。

2. 対象地区の歴史

2-1. 対象地区の歴史

(1) 宇陀市の歴史

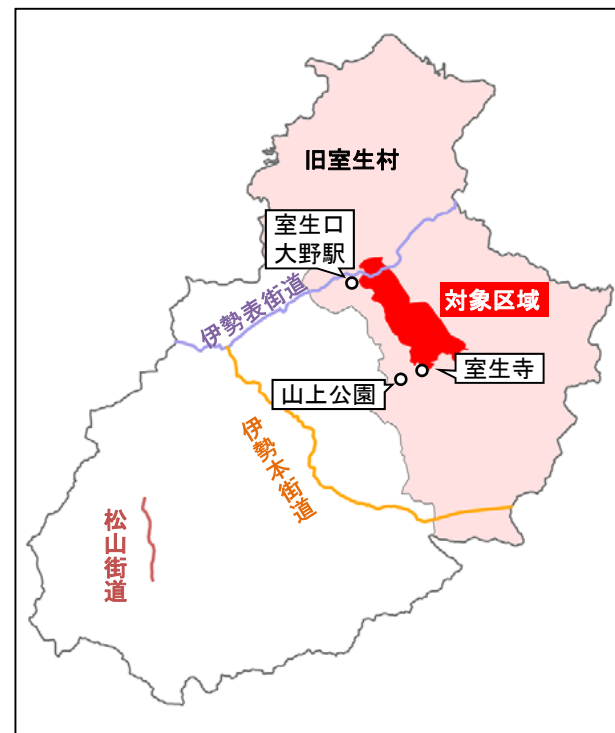
- 本市は、古くから「古事記」「日本書紀」等の歴史書のなかに記載がみられ、神武伝承の舞台としても知られる。『日本書紀』推古19年5月条に、菟田野（うだの、現在の宇陀「阿騎野」の地）に葉狩りを行ったという記載があり、これは、資料により確認できる我が国最初の葉狩の記録。
- 近世には、大宇陀は城下町として、榛原は伊勢本街道と表街道の分岐点にある宿場町として栄えた。
- 平成18年に、菟田野町・大宇陀町・榛原町・室生村の3町1村が合併して「宇陀市」が発足。

(2) 旧室生村の歴史

- 旧室生村は、古代より大和と伊勢・東海道を結ぶ伊勢本街道や表街道が通り、女人高野室生寺等多くの社寺、また天然記念物の室生山暖地性シダ群落等、豊かな自然と歴史的文化遺産に富む村であった。
- 縄文後期又は晩期にあたる3～4千年前から人々が暮らし始めていたことが、数力所ある縄文人の遺跡から明らかとなっている。
- 7世紀後半には自然集落が営まれていたと思われるが、延久2年（1070年）の『興福寺大和国雑役免坪付帳』により、荘園の名が初めて確認された。
- 明治21年の「市制」「町村制」公布に伴い、東里村・三本松村・室生村が成立し、さらに昭和30年の「昭和の大合併」において、東里村・三本松村・室生村の3村が合併し「旧室生村」が発足。
- 昭和34年の伊勢湾台風により旧室生村も甚大な被害が生じた。

(3) 対象地区（室生寺門前及び室生口大野駅周辺）の歴史

- 室生寺参詣者の増加とともに、参詣者をターゲットとした飲食店や宿泊施設などが集積し、室生寺門前地区を形成。
- 室生口大野駅は、昭和5年10月の参宮急行電鉄（現在の近畿日本鉄道大阪線）榛原～伊賀神戸間の開通に伴い開業。
- 大阪方面への通勤通学者や、地域資源である室生寺・大野寺参詣の観光客の増加とともに、駅周辺地区は室生地域の中心地として栄え賑わいを増した。
- 平成22年に、天皇皇后両陛下が「平城遷都1300年記念祝典」へご出席され、奈良時代を象徴する社寺などを数多く巡られた際に、室生寺をご訪問。



【伊勢湾台風による被災(室生寺付近)の様子】



資料)室生村ふるさとメモリー

2. 対象地区の歴史

2-2. 室生口大野駅周辺地区まちづくりの経緯

【平成24年 室生口大野駅前広場整備検討事前準備会の発足の背景】

- 室生口大野駅前は、かつては鉄道と路線バスが接続され、室生地域のバス路線網の起終点としての役割を果たし、駅周辺が賑わった。また室生寺に至る玄関口でもあり、行楽シーズンには多くの観光客に利用されてきた。
- 現在、路線バスは奈良交通室生寺線のみとなり、室生口大野駅をめぐる交通環境が大きく様変わりした。
- 室生口大野駅の一日あたりの乗客は、昭和55年度には約1,800人であったが、平成24年度では約600人に減少。
- 平成16年に「むろうアートアルカディア計画」の一環で、バリアフリー対策として駅前スロープが整備された。春には桜の眺望スポットとなるが、広場の面的広がりを制限している。
- 駅前の商業施設は遊休化が目立つ。
- 地域の顔である駅前を活力あるものに再生することが、地域の課題であり、地域住民の願いとなっている。

- 平成24年 室生口大野駅前広場整備検討事前準備会の発足
- 平成25年 室生口大野駅前広場整備検討事前準備に係る提案書の提出
- 平成26年 宇陀市室生口大野駅周辺等活性化検討会議の発足
- 平成27年 まちづくりに関する包括協定の締結
- 平成28年 宇陀市室生口大野駅周辺等活性化検討会議報告書の提出

<宇陀市室生口大野駅周辺等活性化検討会議報告書（H28.6）の概要>

【基本方針】：室生口大野駅周辺を拠点とし、地域の賑わい及び活力を創出する

【現状と課題】：・現状→少子高齢化に伴う人口減少を受け、バス路線の減少、高校の統合、空き家の進行など、地域活動の存続に対する強い危機感
・課題→ハード面…駅前広場の環境改善、ソフト面…交流人口の増加、空き家・空き店舗対策

【検討事項】：下表のとおり

大項目	具体内容
駅前広場の利用についての土地利用計画	○地域の核となる施設の必要性 ・現在のおもてなしステーションの機能を有しながら、観光案内や特産品販売、地域事務所を兼ね、景観・眺望を活用しバリアフリー化にも配慮した複合施設
交流人口を増加させる取組	○ソフト面での取組（観光ボランティアガイドの設立、室生大野まちづくり協議会の取組支援） ○既存資源の活用（室生大野20景、伊勢表街道のまちなみ、室生埋蔵文化財整理収蔵センター等） ○標識等の整備（国道、やまなみロードの標識、インバウンド観光対応のための外国語表記看板） ○アピールやイベントの強化（「女人高野」、室生山上公園、市内の他の観光スポットとの連携）
空き家・空き店舗対策	○空き家情報バンクの活用 ○新たな事業の検討
財源見通しと整備手法	○国・県の新たな施策を活用し、より有効な制度での早期実現を目指す
その他	○上位計画との整合の必要性 ○新たな人材発掘や宣伝手法の取り入れ ○ハード面の整備（アクセス道路、県東部の拠点となる整備）

【今後のあり方】：関係各部署が連携し、地域住民の思いや考えも取り入れた基本構想を策定（拠点地区：室生寺門前および室生口大野駅周辺地区） 7

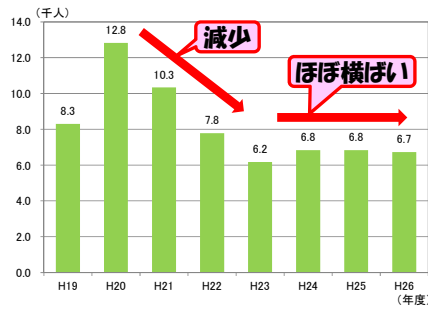
3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-1. 観光面からの課題

(1) 観光者数の推移

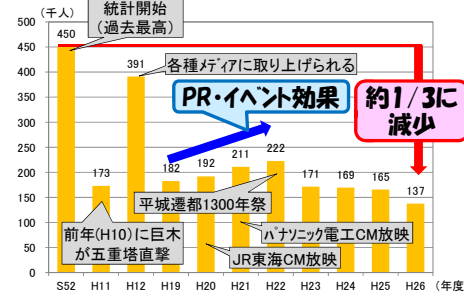
- 室生地区には室生寺や近隣の山上公園の他、東海自然歩道や大師の道、龍穴神社などの資源を有する。
- 室生寺の参詣者数は、統計をとり始めた昭和52年度には45万人であったが、平成26年度には約1/3（13.7万人）まで減少。また、山上公園の利用者も平成20年度をピークに減少傾向に転じ、平成23年以降はほぼ横ばい（約6~7千人）。
- 月別にみると、シャクナゲが見頃の4~5月、紅葉まつり・ライトアップイベントが開催される11月に室生寺や山上公園に多くの人を訪れているが、その他の期間は相対的に少ない。
- インターネットによる室生寺の目的地検索数では、長谷寺（桜井市）と比較して大きな差は見られないものの、来訪者数に差が見られる。情報発信や長谷寺との連携に係る取組（観光シーズン（GW、10-11月）におけるシャトルバスの運行や奈良大和四寺巡礼によるテーマ性を持たせた回遊促進など）を既に実施しているものの、それらが安定した来訪者の呼び込みに至っていないと考えられる。（平成25年の長谷寺観光者数は262千人と室生寺の約1.6倍【出典：長谷寺門前町周辺地区まちづくり基本構想（H28.3）】）

【山上公園：利用者の推移】



室生寺
13.7万人/年

【室生寺：参詣者数の推移】



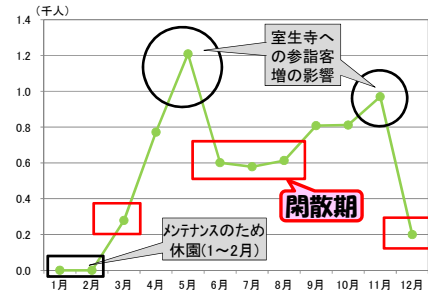
【奈良県内における目的地検索数 上位20施設等(平成27年平日)】

交通手段：自動車			交通手段：公共交通		
順位	名称	回数	順位	名称	回数
1	東大寺	7,394	1	東大寺	1,028
2	奈良公園	6,271	2	奈良公園	847
3	法隆寺	3,432	3	春日大社	552
4	大台ヶ原	2,832	4	法隆寺	381
5	曽爾高原	2,536	5	イオンモール橿原	349
6	春日大社	2,258	6	大神神社	316
7	谷瀬の吊り橋	2,226	7	イオンモール大和郡山	312
8	長谷寺	2,157	8	奈良国立博物館	290
9	大神神社	2,112	9	薬師寺	253
10	大和高原カントリークラブ	2,049	10	唐招提寺	207
11	道の駅 針T・R・S	1,987	11	興福寺	205
12	室生寺	1,876	12	なら100年会館	191
13	薬師寺	1,784	13	奈良ホテル	180
14	山鳩湯	1,695	14	長谷寺	144
15	イオンモール橿原	1,629	15	室生寺	138
16	奈良健康ランド	1,471	16	ホテル日航奈良	135
17	奈良若草カントリー倶楽部	1,412	17	大台ヶ原	128
18	洞川温泉	1,333	18	曽爾高原	122
19	木津川カントリー倶楽部	1,292	19	橿原神宮	117
20	橿原ロイヤルホテル	1,275	20	奈良市瀬ノ池陸上競技場	111

※ ■ は国宝寺を示す

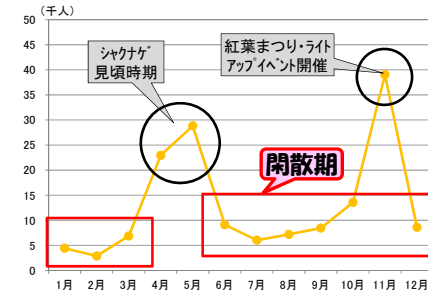
出典)
RESAS
(地域経済分析システム)
観光マップ-目的地分析
(株式会社ナビタイムジャパン 経路検索条件データ)

【山上公園：月別利用者数(5年間平均)】



山上公園
6.7千人/年
来訪者数に格差
※H26年度値

【室生寺：月別参詣者数(5年間平均)】



【室生寺と長谷寺の連携に係る取組】



出典)奈良大和四寺巡礼HP

◎室生寺～長谷寺直通バス

運行日	平成29年1月21日(土)～3月12日(日)、土日祝日のみ
運行時間	● 奈良駅前乗場→室生寺(土専用) 11時30分発 ● 室生寺バス専用→奈良駅前乗場 12時40分発 (所要時間 約45分)
運賃	大人(片道) 030円 ※各種フリー乗車券はご利用できませんのでご注意ください。
乗車特典	● 長谷寺・室生寺参拝券プレゼント ● 長谷寺入山料・・・大人500円→450円 ● 室生寺参拝料・・・大人600円→500円 ※参拝券は1つだけ1か専のみとさせていただきます。 ※他の参拝券との併用はできません。

出典)奈良交通HP

【課題】

- 室生寺及び山上公園では、閑散期における集客の底上げに向けた仕掛けが十分とはいえない
- 観光誘客や周遊観光に繋げるための広域的かつ効果的な情報発信・PRが十分とはいえない（地区の魅力に対する積極的な情報発信・PRの不足）

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-1. 観光面からの課題

(2) イベント実施状況

○室生寺では、1年間の2/3の月において主な行事が催されており、その中でも10～11月の紅葉まつり・ライトアップイベントでは多くの参詣客が訪れている。古来から女性が立ち入れなかった高野山に対し、女性の参詣が許されていたことから、「女人高野」にちなんだイベントも実施されているが、平成25年度に開催された女性限定のピラティス体験教室程度であるなど、企画された回数も少なく、また、継続的な実施には至っていない。

【室生寺の年間行事一覧(平成28年)】

資料)室生寺ホームページより

一月	1月6日	初祈禱 ■時間:午後1時 ■場所:護摩堂
三月	3月12日～ 4月17日	金堂諸仏 国宝 釈迦如来像・十一面観音像 特別拝観 ■拝観時間:午前9時～午後3時まで ・特別拝観料(400円)(特製記念品授与) ※入山料別途要
四月	4月6日	初供養 ■拝観時間:午前10時～ ■場所:奥ノ院
	4月21日	弘法大師正御影供 ■場所:本堂(灌頂堂)及び奥ノ院
五月	5月14日～ 5月29日	秘宝展(室生寺文化財保全事業) ■拝観時間:午前9時～午後4時まで ■場所:慶雲殿 協力金(300円) ※入山料別途要
六月	6月15日	青葉祭 ■拝観時間:午後2時～ ■場所:奥ノ院
八月	8月6日 8月7日 の2日間	曝涼展 ■拝観時間:9時～15時 ■場所:慶雲殿 協力金(拝観料)300円 お抹茶付 ※入山料別途要
十月	10月22日～ 11月27日	金堂諸仏特別拝観 ■拝観時間:9時～15時 ■場所:金堂 特別拝観料 400円(特製記念品授与) 入山料別途要
	10月15日～ 12月4日	紅葉まつり
十一月	11月12日～ 11月27日	国宝五重塔と紅葉ライトアップ ■拝観時間:17時～20時 ※入山締切は19時30分 入山料 大人500円 小人300円



【課題】

- 集客の維持に向けたイベントの新たな企画や、継続的、または年間を通じた開催が行なえていない
- 集客力の向上のための、女性観光客をターゲットとした商品開発や仕掛けが十分とはいえない

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

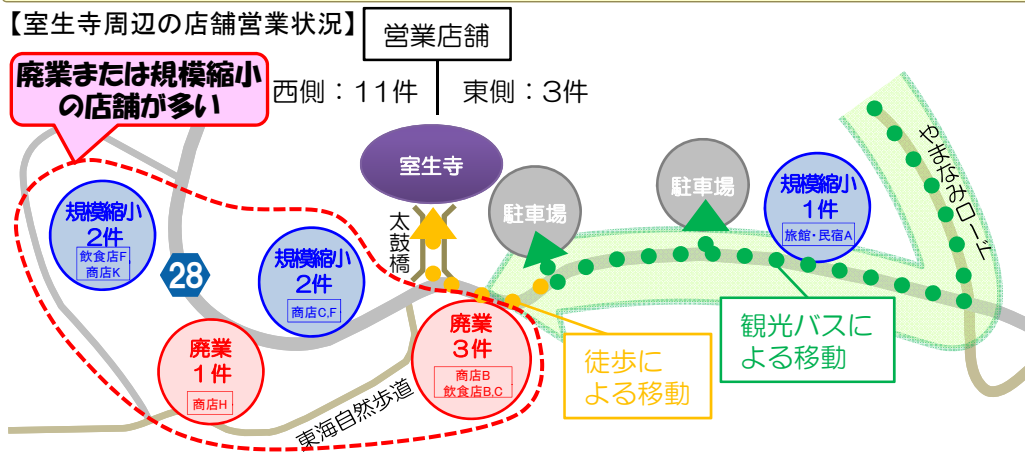
3-1. 観光面からの課題

(3) 観光客の受入基盤を担う商店街の営業状況

○室生寺周辺の商店街23件のうち、廃業届を提出している店舗が4件あり、期間限定や休業、旅館のみ営業していない店舗も含めると9件（約4割）も存在する。

○室生寺の参詣客の減少（p8）や来訪を支援する魅力あるイベントの不足（p9）の他、名阪国道から室生寺へ向かう観光バスは、やまなみロードを経由して室生寺の東側駐車場に駐車して参詣する流れが主流であるため、人の流れが少ない室生寺より西側において、廃業または規模縮小の店舗が多くみられている。

【室生寺周辺の店舗営業状況】



店舗	営業有無	営業店舗、営業日(状況)	店舗	営業有無	営業店舗、営業日(状況)
旅館・民宿A	△	山菜のお菓子の加工のみ(旅館は営業していない)	商店H	×	廃業届提出済
旅館・民宿B	○	団体のみ受入れ(300人)	商店I	○	常時営業
旅館・民宿C	○	宿泊、昼食(7室25人)	商店J	○	常時営業(土産、草餅など)
旅館・民宿D	○	昼食、旅館(1日1組、5人まで)	商店K	△	休業中
旅館・民宿E	○	常時営業	飲食店A	○	軽食(44席、40畳)バス1台分
商店A	○	山野草、土産物	飲食店B	×	廃業届提出済
商店B	×	駐車場のみ営業	飲食店C	×	廃業届提出済
商店C	△	春・秋のみ営業、通い営業、店舗貸し	飲食店D	○	喫茶のみ営業
商店D	○	常時営業	飲食店E	○	常時営業
商店E	○	常時営業	飲食店F	△	春・秋のみ営業、(橿原市から通い営業)
商店F	△	旅館は営業無し、回転焼き、軽食のみ営業	飲食店G	○	常時営業
商店G	○	土産物、食料品のみ営業			※室生自治会ヒアリング(H28.9.15)より

【課題】

- 来訪者の動線の偏り等に起因する、商店街の賑わいの低下

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-2. 交通面からの課題

(1) 来訪交通への案内

○室生地区への広域アクセスルートは、名阪国道と国道165号が主であり、名阪国道からは小倉ICからやまなみロード（奥宇陀広域農道）を経由、針ICからは国道369号及び県道28号を経由するルートが一般的。

○これらの広域アクセスルートにおいても「室生」への案内があり、近傍では「室生寺」への案内が充実している。

○名阪国道には道路案内標識以外の案内看板として「長谷寺」の看板が設置されているものの、「室生寺」の案内看板は無い。

名阪国道

名阪国道に「長谷寺」の看板は設置されているものの、「室生寺」の看板は無い



針IC

いずれの案内板も「室生」の記載はあるものの表記が小さく「室生寺」の記載は無い



室生口交差点

いずれの案内板にも「室生寺」の記載あり



小倉IC

一般道側では「室生」の記載はあるが「室生寺」の記載は無く、本線には「室生」の記載すら存在しない



やまなみロード交差点

いずれの案内板にも「室生寺」の記載があり、ピクト入りで目立ちやすいものもあり



【課題】

- 広域アクセスルートからの来訪交通誘導のための案内が十分とはいえない

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-2. 交通面からの課題

(2) 路線バス

- 室生寺への路線バスは、近鉄室生口大野駅と室生寺を結ぶ「室生線」（奈良交通）の1系統のみ。
- 「室生線」は平日は1日7往復、休日では1便増加され一日8往復の運行であり、基本的に1時間に1便となっているが、昼12時を挟む時間帯では最長1時間40分の待ち時間が生じる。
- 室生寺の最寄りバス停である「室生寺」バス停は、日差しや雨をしのぐことができる屋根が無いほか、座って待つためのベンチも無い。
- 室生寺は内陸の山間部に位置しており、最高気温は奈良市と比べ約1~2℃低く、最低気温は約3~4℃低めであり、さらに年間降水量は奈良市の約1.5倍となっているなど、気象条件が厳しい。
- 東海自然歩道周辺はフリー乗車区間となっており、どこでも乗車できるメリットがあるが初来訪者にとってはわかりにくい。

【バスの運行状況：室生線】

平休区分	時間帯	発車分	
		室生口大野駅発	室生寺発
平日	7		
	8		
	9	20	50
	10	20	50
	11	20	50
	12		
	13	00	30
	14	00	30
	15	00	30
	16	00	30
休日	7		
	8	20	50
	9	20	50
	10	20	50
	11	20	50
	12		
	13	00	30
	14	00	30

最大1時間40分の待ち時間

出典) 奈良交通HP

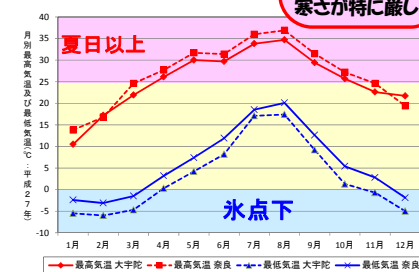
【「室生寺」バス停の状況】



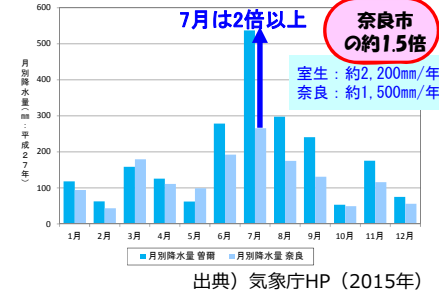
屋根・ベンチともに未設置なバス停
夏期の炎天下や冬期の極寒時、雨天時も立ち並んでバスを待つ必要あり



【月別最高・最低気温】



【月別降水量】



【フリー乗車区間の案内】

【課題】

- バス利用者へのおもてなし機能（バス停の機能やフリー乗車区間の周知）が十分とはいえない

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

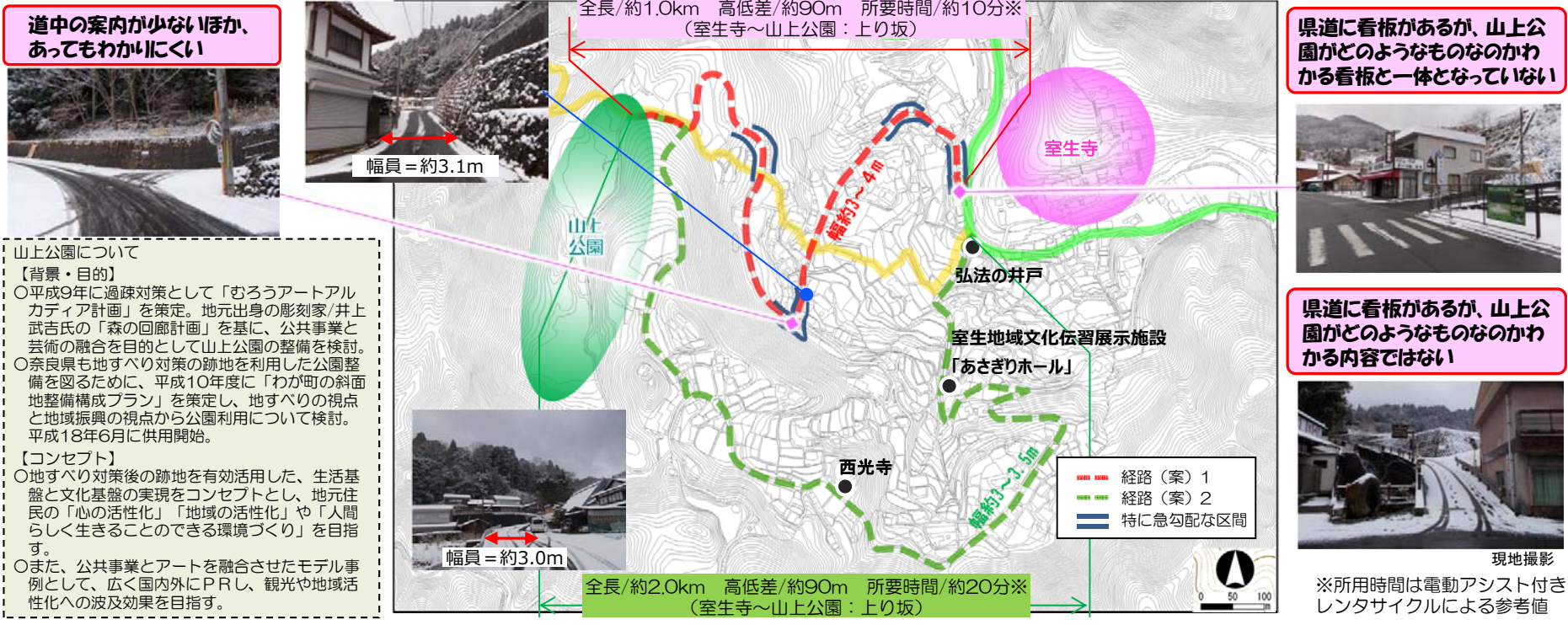
3-2. 交通面からの課題

(3) 室生寺-山上公園のアクセス

○室生寺から山上公園へは、地区内の生活道路を利用するのが最短ルートであるが、急勾配箇所も多数存在するほか、幅員が狭いため自家用車での移動はすれ違いの困難さや安全面からも問題。

○室生門前の県道28号には山上公園への案内看板が設置されているが、山上公園がどのようなものなのか示されていない、または示されていても、看板と一体性が無い他、道中には案内がほとんど存在しないため、あとどのくらいの距離なのか、どのくらい時間がかかるのか不明。

○室生寺と山上公園の来訪者数に大きな格差があり（p8参照）、両施設間の行き来が少ないことが窺える他、歩行者が主に通行する東海自然歩道（室生寺-山上公園間）は、住宅地を抜けていくため、来訪者にとって魅力度が十分とは言えない。



【課題】

- 室生寺から山上公園への誘導をスムーズに行うための案内が十分とはいえない
- 室生寺から山上公園のアクセスを強化するための移動手段が徒歩や自家用車に限られる
- 室生寺から山上公園への来訪を誘発する仕組みが構築されていない

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-2. 交通面からの課題

(4) 室生寺 - 室生口大野駅のアクセス

○大野寺 - 室生寺門前（または山上公園）間には起終点付近以外には、トイレやベンチなどが無く、ハイカーやサイクリストのための休憩機能が十分とはいえない。11月に実施した東海自然歩道のハイカーを対象としたアンケート調査においても、トイレや休憩スペースに対する要望が上位を占める結果となった他、案内マップに対する要望も高い結果となった。なお、同アンケートの自由意見では足場が危険な区間があり、注意喚起が必要との声もみられる。

○自転車により室生寺周辺に訪れた方が駐輪に不自由しているという声もみられる。



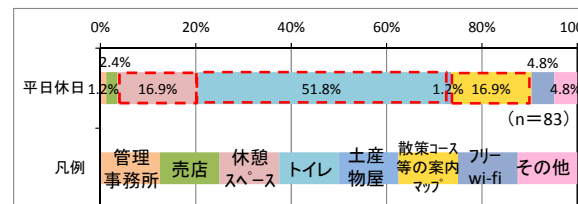
【室生自治会長のご意見より】



室生地域事務所でレンタサイクルを借りて室生へ来た人が置き場がないうろろしていることがあります。私の店の前でいつも「ここへ置いとかはったら」と自転車を置かせてあげてますが、それでも苦勞しています。

※第1回室生寺門前および室生口大野駅周辺地区まちづくり検討協議会(H28.10.26)より

【ハイカーアンケート】～問 東海自然歩道にあれば良いと思った施設～



アンケート実施状況
H28/11/12 (土)

東海自然歩道にあれば良いと思った施設は、「トイレ」が51.8% (43人) と最も多く、次いで「散策コース等の案内マップ」と「休憩スペース」が16.9% (14人) となった。

【ハイカーアンケート】～問 東海自然歩道に訪れて感じた「気がついた点」(自由意見)～

足元が悪いので滑らないようにしてほしい、コケで滑りやすかった
ぬかるみが多い、石で滑った など

【課題】

- トイレ、休憩スペースに関する案内が十分とはいえない
- 自転車による来訪者のための駐輪スペースが整備されていない
- 東海自然歩道に係る情報発信が十分とはいえない

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-3. 生活面からの課題

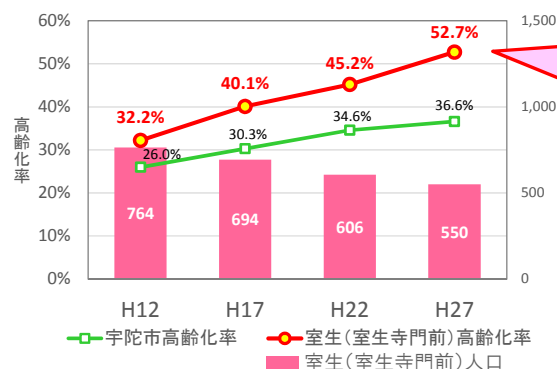
(1) -1 生活関連施設（室生寺門前）

○室生寺門前では、商店街の廃業が顕在化する他、7軒の空き家が存在している。現在、室生寺門前地区における高齢化率は年々増加傾向にあり、宇陀市や室生地域と比べても非常に高いことから、更に空き家件数が増加していくことが懸念される。

○なお、元空き家に対し、3軒は地域外の方の別荘として、1軒は移住者が居住するなど、空き家を活用する動きは見られる。



室生寺門前の商店街の様子



室生寺門前地区では、高齢化率の進展が進んでおり、宇陀市全体と比べると大幅に高く、人口も減少傾向が進んでいる。

出典) 国勢調査
※人口集計は室生寺門前が含まれる小地域を対象

【課題】

- 室生寺門前での高齢化の進展・人口減少に起因する空き家の増加に伴う、地区の活力衰退

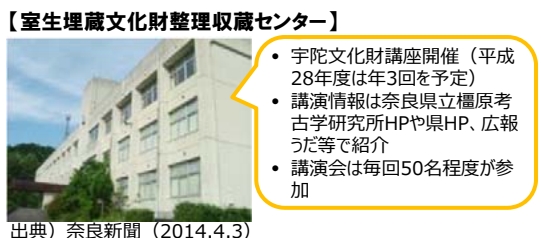
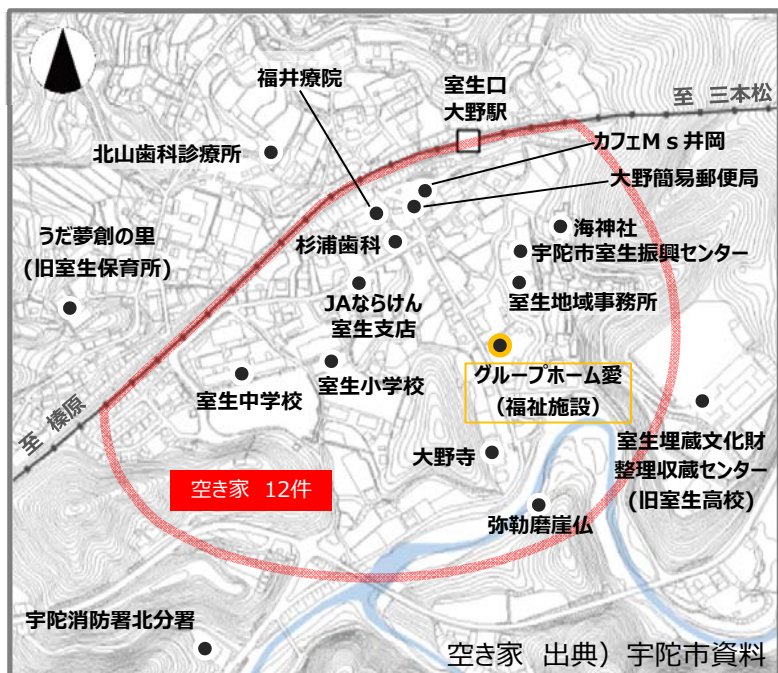
3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-3. 生活面からの課題

(1) -2 生活関連施設（室生口大野駅周辺）

○室生口大野駅前南側には住宅が広がる。周辺には室生地域事務所、室生振興センター、室生埋蔵文化財整理収蔵センターをはじめとする公共施設が立地するが、室生地域事務所では未利用空間が見られ、室生振興センターでは利用者数、利用件数ともに減少傾向にある。また、室生埋蔵文化財整理収蔵センターで開催されるイベントは、毎回50人程度の参加者があるものの、グラウンドを利用したイベントや常設展示などによる既存ストックの有効活用や年間を通じた施設の活用には至っていない。

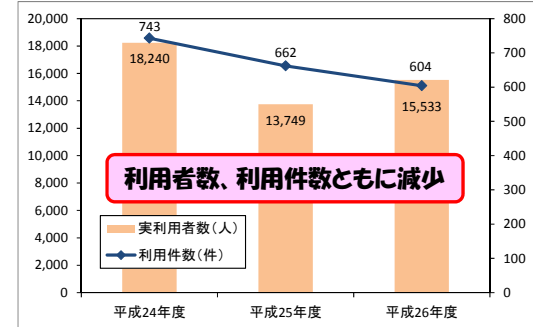
○室生口大野駅以南では、12軒の空き家が存在するが、室生大野では近年人口減少の伸び率が加速しており、今後さらに空き家が増加することが懸念される他、高齢化が進展する中で、駅周辺の福祉施設が1件のみと高齢者への対応が十分とはいえない。



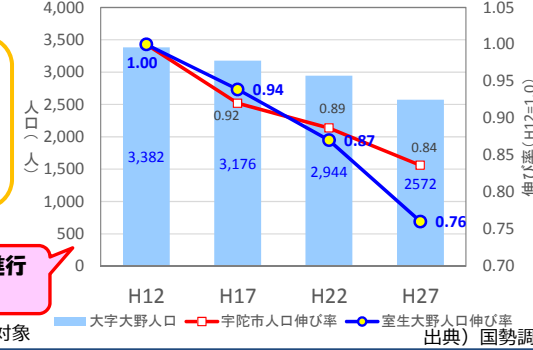
室生口大野駅周辺では、人口減少の進行スピードが宇陀市全体より早い。

※人口集計は室生寺門前が含まれる小地域を対象

【振興センターの利用者数、利用件数の推移】



【室生大野の人口推移】 出典) 宇陀市資料(施設調査票)



【課題】

- 地域事務所の未利用空間、振興センターの利用者の低迷、室生埋蔵文化財整理収蔵センターの有効活用等、公共施設が効果的に活用されていない
- 室生口大野駅周辺での人口減少に起因する空き家増加に伴う、地区の活力衰退

3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

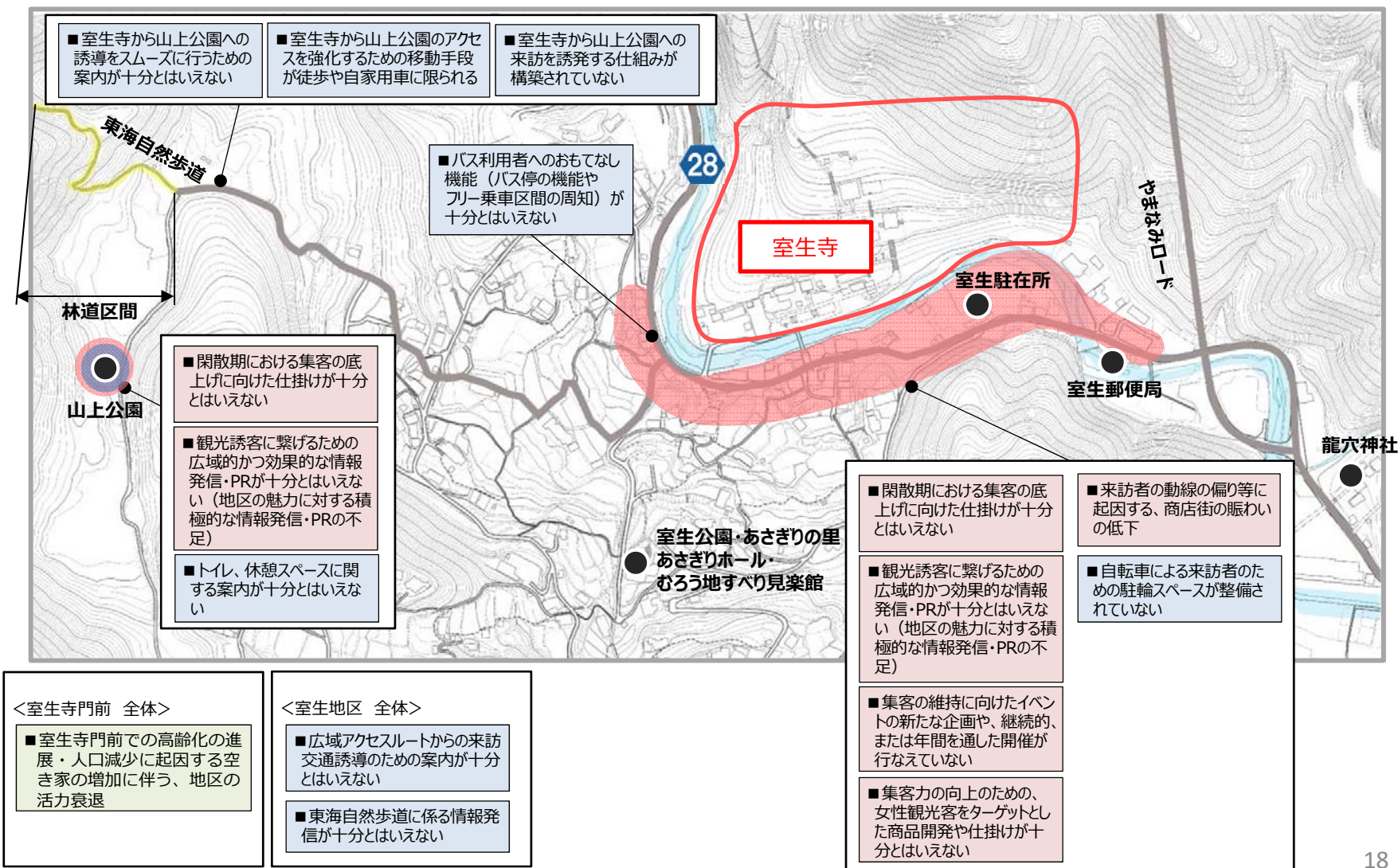
3-4. まちづくりの課題図

<室生寺門前>

観光面からの課題

交通面からの課題

生活面からの課題



3. 室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の現状と課題

3-4. まちづくりの課題図

<室生口大野駅周辺>

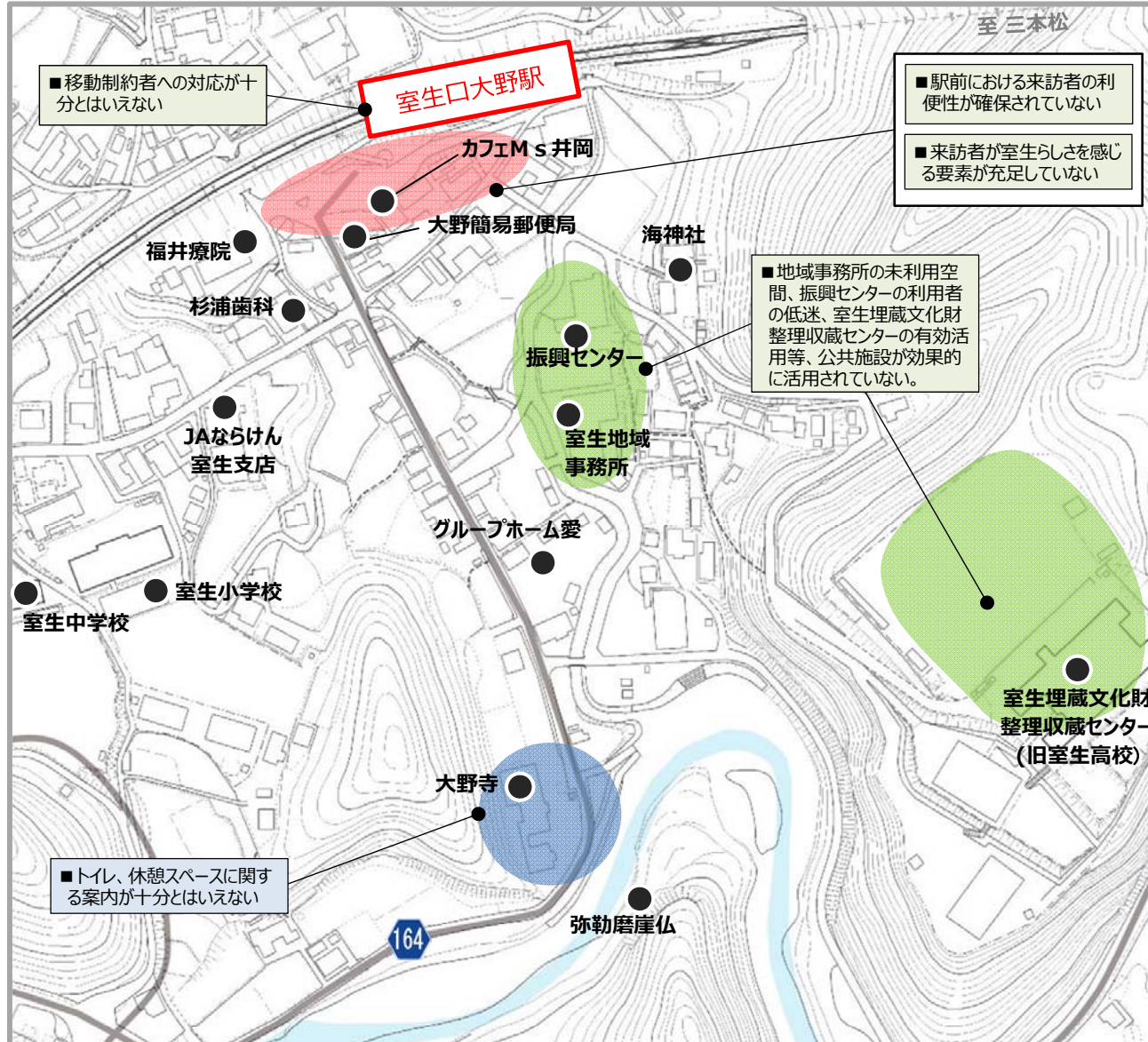
観光面からの課題

交通面からの課題

生活面からの課題

<室生口大野駅周辺全体>

- 室生口大野駅周辺での人口減少下に起因する空き家増加に伴う、地区の活力衰退



<室生地区 全体>

- 広域アクセスルートからの来訪交通誘導のための案内が十分とはいえない
- 東海自然歩道に係る情報発信が十分とはいえない

4. まちづくりのコンセプトと基本方針

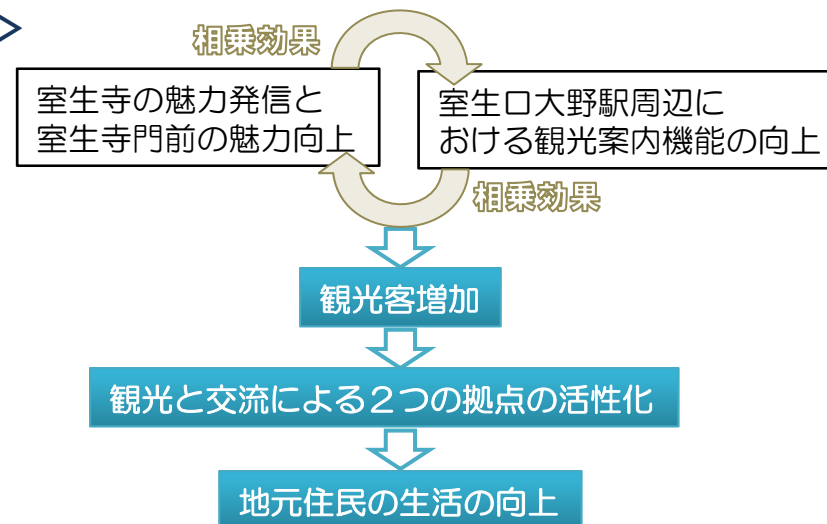
4-1. コンセプト

<室生寺門前および室生口大野駅周辺地区まちづくりコンセプト>

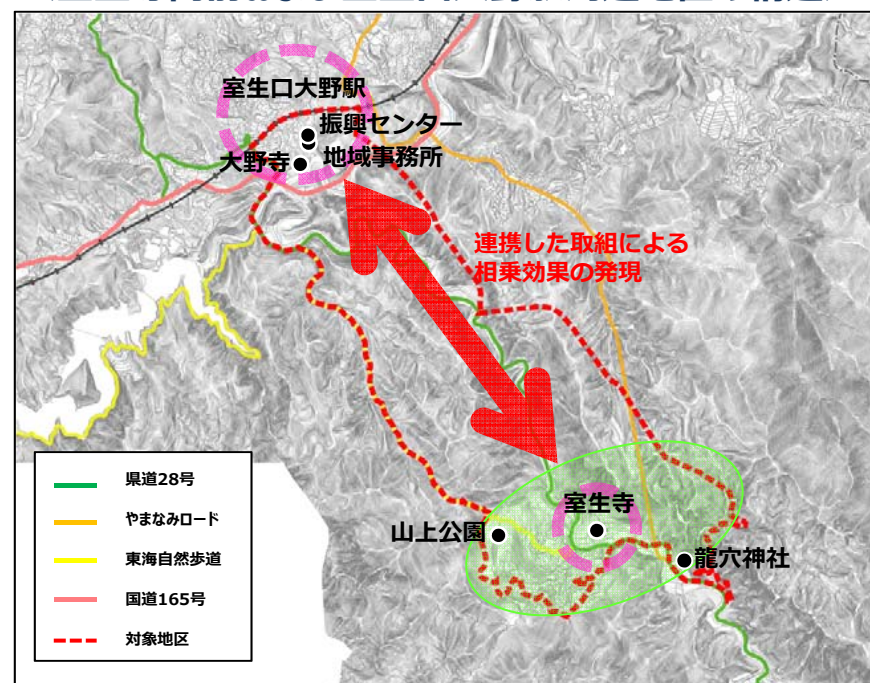
女人高野の郷 室生 おもてなしによる 観光と交流のまちづくり

<コンセプトの趣旨>

- 室生門前および室生口大野駅周辺地区のまちづくりは、地域の課題に応じた「室生寺の魅力発信と室生寺門前の魅力向上」、「室生口大野駅周辺における観光案内機能の向上」に資する多様な取組を相互に連携、調整しながら地元住民が主体となって展開する。
- 室生寺門前では特に女性をターゲットとした取組による商店街の魅力向上、室生口大野駅では公共交通での来訪を促進し、観光客の増加を促すとともに、互いの相乗効果により、観光と交流による2つの拠点の活性化を目指す。
- そして、その効果は地元住民の生活の向上へ波及していくことをねらいとして、コンセプトを設定した。



<室生寺門前および室生口大野駅周辺地区の構造>



4. まちづくりのコンセプトと基本方針

4-2. まちづくりの方針

<課題>

【観光面】

[観光者数]

- ◇室生寺及び山上公園では、閑散期における集客の底上げに向けた仕掛けが十分とはいえない
- ◇観光誘客に繋げるための広域かつ効果的な情報発信・PRが十分とはいえない（地区の魅力に対する積極的な情報発信・PRの不足）

[イベント]

- ◇集客の維持に向けたイベントの新たな企画や、継続的、または年間を通した開催が行えていない
- ◇集客力の向上のための、女性観光客をターゲットとした商品開発や仕掛けが十分とはいえない

[受入基盤]

- ◇来訪者の動線の偏り等に起因する、商店街の賑わいの低下

【交通面】

[来訪交通への案内]

- ◇広域アクセスルートからの来訪交通誘導のための案内が十分とはいえない

[路線バス]

- ◇バス利用者へのおもてなし機能（バス停の機能やフリー乗車区間の周知）が十分とはいえない

[室生寺-山上公園のアクセス]

- ◇室生寺から山上公園への誘導をスムーズに行うための案内が十分とはいえない
- ◇室生寺～山上公園のアクセスを強化するための移動手段が徒歩や自家用車に限られる
- ◇室生寺から山上公園への来訪を誘発する仕組みが構築されていない

[2拠点間の状況]

- ◇トイレ、休憩スペースに関する案内が十分とはいえない
- ◇自転車による来訪者のための駐輪スペースが整備されていない
- ◇東海自然歩道の維持管理が十分とはいえない

【生活面】

[室生寺門前]

- ◇室生寺門前での高齢化の進展・人口減少に起因する空き家の増加に伴う、地区の活力衰退

[室生口大野駅周辺]

- ◇地域事務所の未利用空間、振興センターの利用者の低迷、室生埋蔵文化財整理収蔵センターの有効活用等、公共施設が効果的に活用されていない。
- ◇室生口大野駅周辺での人口減少に起因する空き家増加に伴う、地区の活力衰退

[地域の玄関口]

- ◇駅前における来訪者の利便性が確保されていない
- ◇来訪者が室生らしさを感じる要素が充足していない
- ◇移動制約者への対応が十分とはいえない

<施策の方向性>

【観光の振興】

- 来訪者呼び込むための地区の魅力の向上及び情報発信の強化
- 室生地区の観光中心地である門前の機能充実及び活力の向上

【交通の充実】

- 室生寺-山上公園の移動を促す取組の強化
- 来訪者が快適に訪れる事ができる環境づくり
- 円滑な移動を支援する情報機能の強化

【生活の充実】

- 地区の活力を維持するための移住者受入環境の強化
- 既存ストックの有効活用による地元住民の交流機会の創出
- 室生らしさを体感できる来訪者と地元住民の交流環境の構築

<まちづくりの施策方針>

1. 観光ポテンシャルを活かした魅力向上

- 室生地区のブランディング
- 賑わいの創出
- おもてなし空間の整備

2. 公共交通を中心とした移動環境の向上

- 来訪者を支援する案内の強化
- 室生口大野駅から室生寺までの移動環境の充実
- 室生寺門前-山上公園のアクセスの向上

3. 観光との相乗効果による地区の活力向上

- 週末移住やセカンドライフを対象とした移住促進
- 公共施設の有効活用
- 駅前における交流施設の整備

4. まちづくりのコンセプトと基本方針

4-3. まちづくりの施策体系

- 「観光ポテンシャルを活かした魅力向上」「公共交通を中心とした移動環境の向上」「観光との相乗効果による地区の活力向上」を3本柱とする施策体系により、室生寺門前および室生口大野駅周辺地区のまちづくりを進める。
- 取組方針の実現にあたっては、地元住民が主体となり、行政（市・県）・民間企業とが連携、協働し、それぞれの役割を明確にして、まちづくりを進める。

施策方針	取組施策	取組方針
1. 観光ポテンシャルを活かした魅力向上	(1)室生地区のブランディング	①女人高野 室生寺とその門前及び山上公園の魅力の発信・PR ②地元産品を用いた商品開発
	(2)賑わいの創出	①イベントの開催による集客力の強化 ②周辺資源と連携した周遊観光支援（歩行者動線の検討等）
	(3)おもてなし空間の整備	①空き店舗利用者の誘致等による商店街の活性化と景観環境整備 ②河川空間の活用に適した景観環境整備
2. 公共交通を中心とした移動環境の向上	(1)来訪者を支援する案内の強化	①広域交通に対する誘導 ②来訪者や地元住民のニーズ及び景観に配慮したわかりやすい情報案内の提供
	(2)室生口大野駅から室生寺までの移動環境の充実	①バス停の利用環境の改善 ②サイクリストやハイカーへの移動しやすい環境整備（※室生口大野駅のバリアフリー対策は要検討）
	(3)室生寺門前－山上公園のアクセスの向上	①山上公園へのアクセス強化
3. 観光との相乗効果による地区の活力向上	(1)駅前における交流施設の整備	①行政サービス（地域事務所の移転）や観光案内所等の機能を有する複合施設の整備 ②観光客と地元住民との交流の場の創出
	(2)公共施設の有効活用	①地域事務所、振興センター、室生埋蔵文化財整理収蔵センターの福祉の充実に向けた有効活用の検討
	(3)週末移住やセカンドライフを対象とした移住促進	①移住者の誘致による定住の促進

4. まちづくりのコンセプトと基本方針

4-4. まちづくり構想図

<室生寺門前>

1. 観光ポテンシャルを活かした魅力向上

2. 公共交通を中心とした移動環境の向上

3. 観光との相乗効果による地区の活力向上

1-(2)賑わいの創出

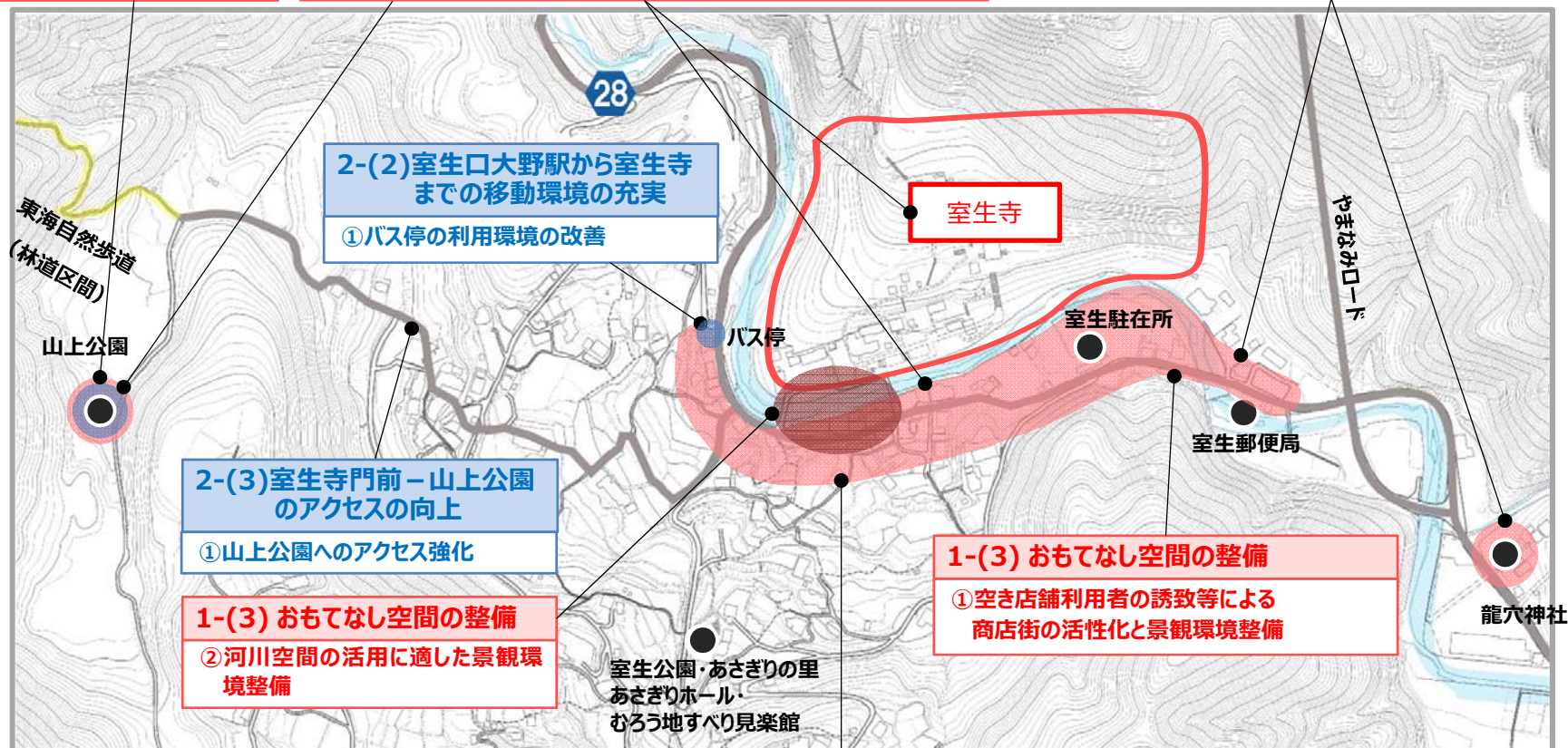
- ① イベントの開催による集客力の強化

1-(1)室生地区のブランディング

- ① 女人高野 室生寺とその門前及び山上公園の魅力の発信・PR
- ② 地元産品を用いた商品開発

1-(2)賑わいの創出

- ① イベントの開催による集客力の強化
- ② 周辺資源と連携した周遊観光支援（歩行者動線の検討等）



<室生寺門前 全体>

3-(3)週末移住やセカンドライフを対象とした移住促進

- ① 移住者の誘致による定住の促進

2-(2)室生口大野駅から室生寺までの移動環境の充実

- ② サイクリストやハイカーへの移動しやすい環境整備

4. まちづくりのコンセプトと基本方針

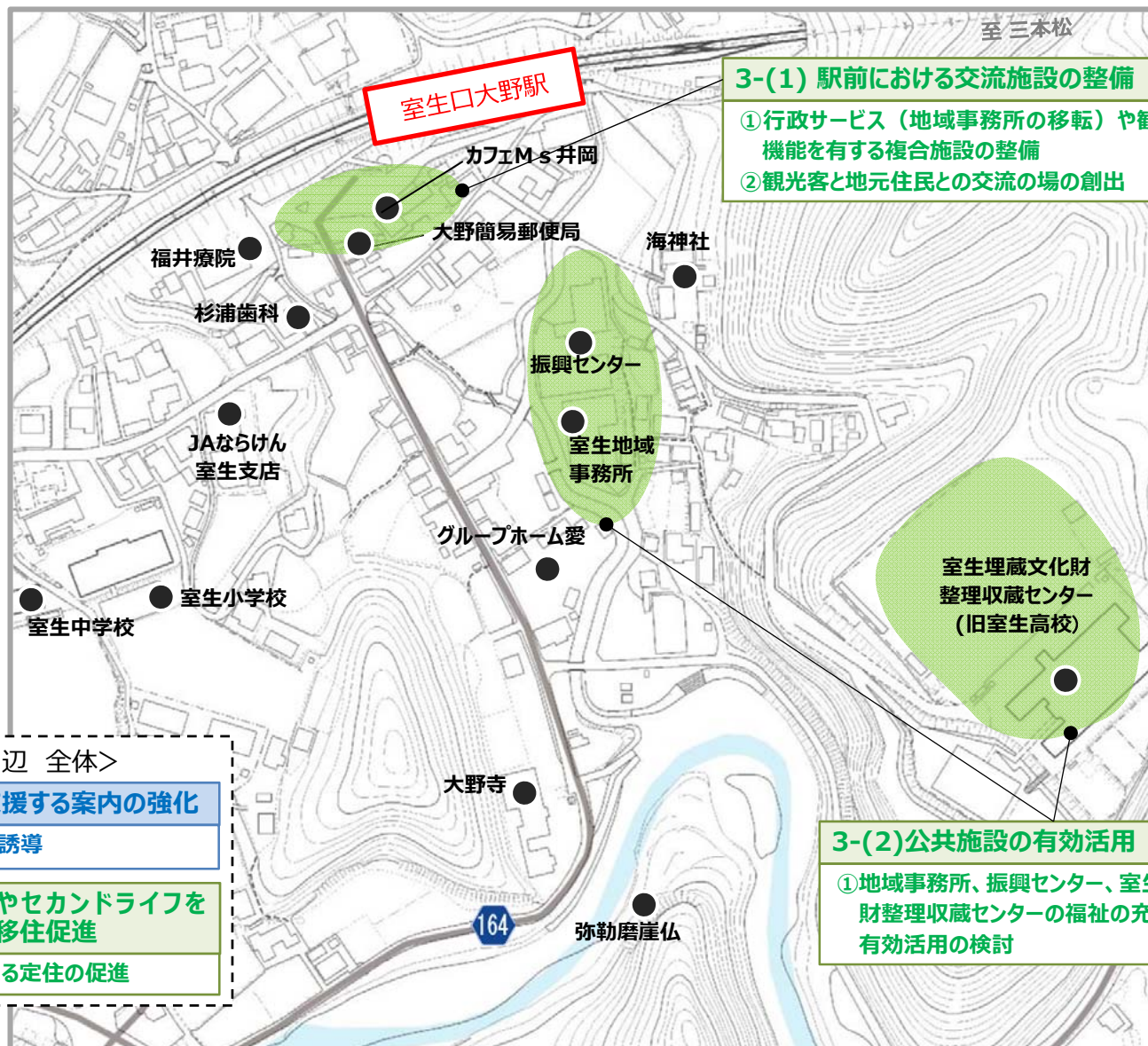
4-4. まちづくり構想図

<室生口大野駅周辺>

1. 観光ポテンシャルを活かした魅力向上

2. 公共交通を中心とした移動環境の向上

3. 観光との相乗効果による地区の活力向上



3-(1) 駅前における交流施設の整備

- ① 行政サービス（地域事務所の移転）や観光案内所等の機能を有する複合施設の整備
- ② 観光客と地元住民との交流の場の創出

3-(2) 公共施設の有効活用

- ① 地域事務所、振興センター、室生理蔵文化財整理収納センターの福祉の充実にに向けた有効活用の検討

<室生口大野駅周辺 全体>

2-(1) 来訪者を支援する案内の強化

- ① 広域交通に対する誘導

3-(3) 週末移住やセカンドライフを対象とした移住促進

- ① 移住者の誘致による定住の促進

4. まちづくりのコンセプトと基本方針

4-4. まちづくり構想図

<室生寺門前－室生口大野駅周辺間>

1. 観光ポテンシャルを活かした魅力向上

2. 公共交通を中心とした移動環境の向上

3. 観光との相乗効果による地区の活力向上

